



校庭の芝生が芽吹き
ひばりさえずり
建設の槌音を友として
ここに集う五百余名
力を合わせて大玉運び
追いつけワッショイ
追いつせワッショイ
ぼくらは元年な大門っ子
躍動の声空高く
響きわたってこだまする
つぶらなひとみに
みなぎる気魄

昭和54年7月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会

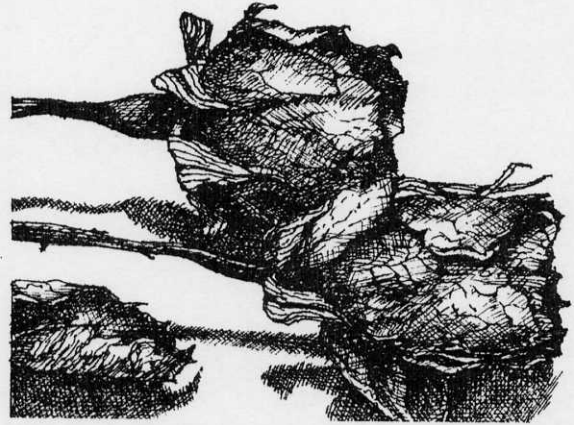


(大玉運び - 大門小)

—教育随想—

こんな先生に

小笠原 健治



教育は教師論につきるとよく言われる。当然のこととは言いながら、このごろしみじみ本当にそうだと思う。

一時期、教育者は聖職か労働者か論じられ、そのうちに専門職ということが言い始められたのはいつごろだったろう。

医師や弁護士などに例を引かれ、教育者も特殊な技術をもったプロであり、玄人であらねばならぬという意味のことが、やや願いをこめての言い方をして言われたような気がする。

プロであり、玄人であるということは、素人ではもっていない能力、素人ではできない技術、それにもなった学識、経験をもつということであろうか。何かそ

こには、人柄とか、人間性とか、愛情とかいったものの匂いが忘れられているような味わいがする。

教師としてどうあらねばならないか、どんな先生が好ましいか、どんなにあつてほしいか、学者というわけではなく、直接子供たちと四六時中接している教育現場の実践者としてのあり方はと考える。

森信三先生は、『理想の中学校教師像』の中で、中学校教師の五つの条件として、
 (一)脚もとの紙くずを拾いながら、
 (二)毛沢東選集をよむ教師。
 (三)トーシャ版の技術のうまいこと。
 (四)オートバイに乗れること。
 (五)日常生活の中に二、三の生活規律をもつこと。

をあげている。もちろん、それぞれの項目に考え方の基盤があり、特に(四)の場合では、今では自動車に乗れること、と書かれるかもしれない。これがそのまま教師論といえるかどうかは別として、その姿勢の一つのあらわれということではできよう。

また一方「先生らしい」という言い方と「先生くさい」という言い方をきくことがある。「先生らしい」といわれる場合は、親しみの中に威厳があり、人柄もよく、子供たちから慕われ、父母の信頼を集めているように思われ、「先生くさい」といわれる場合は、背を丸め、くたびれた背広に古くさいネクタイ、何か頑固で、融通のきかない人物が想像されるとされ、教師のあり方もいろいろの立場からいろいろに言われてきた。

その中で私はこのごろ思う。本当に素朴に素直にこうは言えないだろうか。「私の子供はこんな先生におあずけしたい。」「こんな先生に私の子供をおあずけしたい。」と。

また、教師として子供に接して、「こんな時に自分の子供だったら、先生にこんなふうに指導してほしい。」などなど。私も長い間教育にたずさわらせていただいて、こう考えるとまことに恥ずかしい。至らぬ教師であつたと思わずにはいられない。

私の反省としてこんなことを考えている。
 (岡崎女子高等学校 副校長)



東南アジアでの筆談

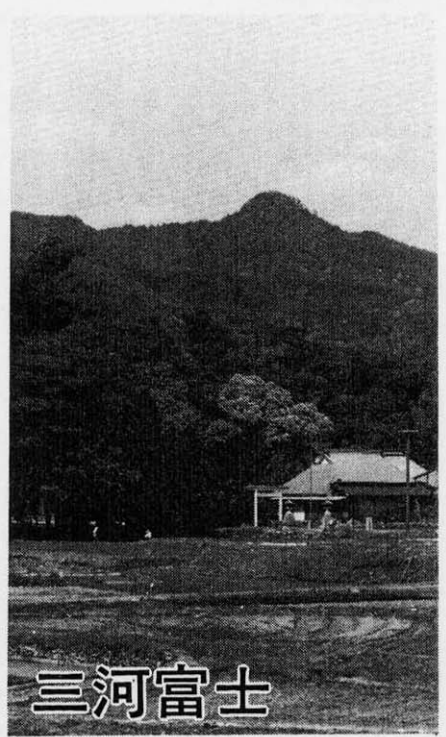
大河原 隆

東南アジアの視察旅行は、インドネシア・マレーシア・シンガポール・香港等、いずれも現地人のガイドが、日本語がすばらしく達者で短期間であったが、それぞれの国内事情・教育事情・社会情勢等を、眼で見、耳で聞き、肌で感じる事ができた。

最近では、特にこの方面への日本人海外旅行者が多くなったようである。どこへ行っても、おみやげ物店の店頭には、「日本語でどうぞ」と張り紙がしてある。店内に入ると、日本語は勿論、日本円も使用でき買物物は不自由しなかった。

また、観光地では、バスが停車すると、十歳前後の子どもが、民芸品をもって集り、片ことの日本語で必死になって売りに来る。

香港で最後の夜、やっと自由時間がとれたので、数名でナイトクラブへ行つた。ホステスが広東人で言葉(日英中国語)は通じない、ふと気がついて筆談を始め



三河富士

久昆命がお祀りしてある。そのほかに駿河の富士山頂の浅間神社のお札と富士山頂の溶岩が御神体となっている。

三河富士信仰は、江戸時代より、富士登山の地方の出張所の役割を持っていた。参拝者は三河一円に及び、かなりの賑わいを見せていたようである。

現在では、近隣のわずかな人々の信仰と地元の人々によって受け継がれている祭りに、その名残りを留めている。

お祭りは、旧正月と四月の二回ある。旧正月は御神酒やお供えを飾って、皆で参拝し、日の出を拝み、おみくじを引く、そして酒をいただいで下山する。

子供を育てる母親が、三河富士の神様に米を供え、その御撰米を炊いていたのだと乳の出がよいと言う。この信仰は、今日まで続いていることからみて、まんざらでもないと思うのである。

今年の旧正月には、生平学区民による富士登山が計画され、幼児から、お年寄まで約二百人が春の一日を楽しんだ。教育の上からも非常に有意義であった。

最近では、三河富士登山は、信仰というよりも、ハイキングコースとして見直されつつある。

登山コースは、蓬生町の一の鳥居から山すそを左に迂回すると、急坂がなく、道幅も広く、幼児でも登ることができ、道のりは、生平小学校から頂上まで、約四キロメートル、一時間半である。

(生平小 稲葉道彦)

た。例えば 便所へ行きたい 洗面間御用、初めて 第一次、など、中国系の人とは漢字を書けば意味は通じる。この筆談は、印象的であった。

(常南小)

いしだたみの町ローマ

太田 恭子

あそこにもここにも……ステンドグラスの美しい建物―教会―があるこの町。ローマのファッションはすごいものだ。

毛皮のコートにロングブーツ姿。行きかう人すべてがこのスタイルである。

毛皮とまではいかぬが、トレンチコートをも肩にひっかけ、気張って歩いた。あの「ローマの休日」で有名なスペイン階段を。ヘップバーン二世かの如く。

コンドッチ通りまで行くと、世界的に名のお店がずらり。「商売繁盛だなあ」と中に入った。「なんと、日本人客ばかり。あきれ、そのまま通りを下って行った。

大通りに出た。石だたみの町にも車は走る。ここは、右側通行だ。信号も横断歩道もあってなきが如しとはよく言ったもんだ。一切無視。どどん歩き出しているではないか。急ぐ者もない。歩行者は信号待ちするのが当然というの、のん気なローマ人には通用しない。全く落ち着いたもんだ。あきれ返って、私は通りを下って行った。

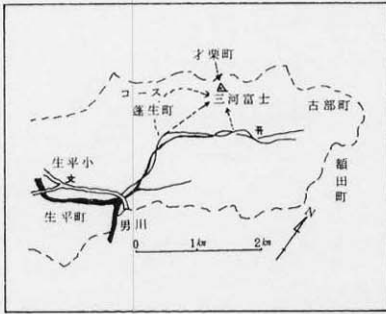
(矢南小)

三河富士は岡崎市の東北約十二キロメートル(岡崎市蓬生町)にあって、標高三一五メートルである。

遠くは丸山町の泉道から眺めることができ、その形の美しさから、誰でもなるほどと納得できる。生平町の溪谷に入るあたりから、すぐそれと分かるすそ野を持つてそびえている。

登山道は四本あるが、一の木の神門のある這般山から登るのが正規のルートである。この鳥居をくぐる辺りは、急坂が続くが、しばらくして、尾根に出て、なだらかな山道となる。人が一人通れる程の細道で、植物や昆虫が豊富である。

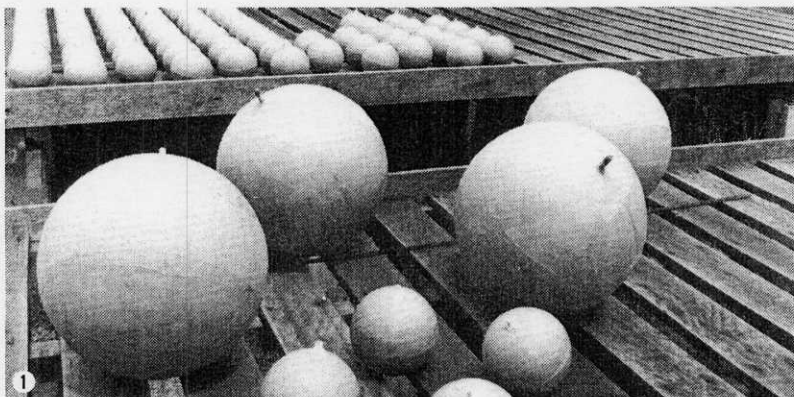
頂上近くのや、開けた場所に、今では枯木になってしまったが、立派な茶屋松のあった場所がある。ここから約一キロメートルは再び急坂になる。所々に苔むした花崗岩が亀裂して、亀岩となって点在している。



この辺りから見下ろすと蓬生町・生平町・遠くは岡崎市街・矢作川が一望でき。周りの樹木が成長し、や、視界が悪くなっているもの、眺めはずばらしい。頂上には、一〇〇平方メートル位が平坦地となっていて、社がある。この中に約五十センチメートル位の祠に木花佐

打上げ花火

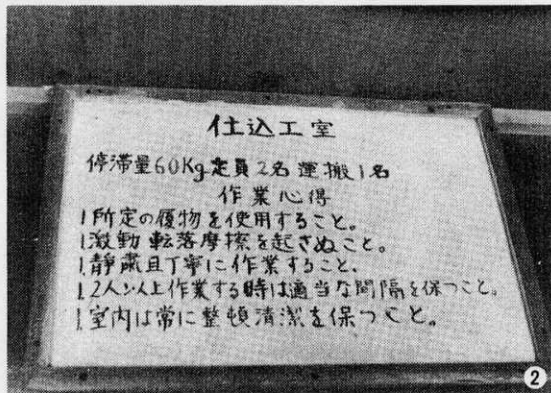
⑭



夏の夜空をいろどる打上げ花火。一瞬にして消えるものだが、その美しさと音を求めて、花火大会に多くの人が集まる。花火の本場といわれ、古い伝統を持つといわれる岡崎地方だが、打上げ花火を作っているのは、礮谷を名のっている二軒だけで、親類になっている。

打上げ花火の製造過程を写真にとろうと、過日編集子は、保母町の山の中にある礮谷煙火工場をたずねた。小美から美保橋を渡ってから川に沿って少しのぼり、車の腹をすりそうな山道を登ると、煙火工場が、松林の中に点在していた。

六畳ほどの作業小屋の中で、菊紅降雪と呼ばれる六号玉に、星という火薬をつ



めながら、主人はこの地方の打上げ花火の歴史について語ってくれた。

打上げ花火作りを業としたのは私の祖父で、当時松平村岩倉、今の豊田市岩倉に住んでおりました。明治の頃は神社の祭礼に、村の花火好きが集って打上げ花火を作ったりしておりましたが、大正になって取締りがきびしくなり、勝手に打上げ花火を作ることが許されなくなりしました。その時私の祖父は、打上げ花火作りのプロになろうと決心したようです。

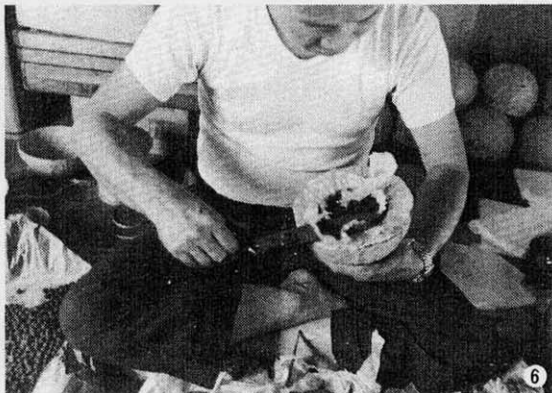
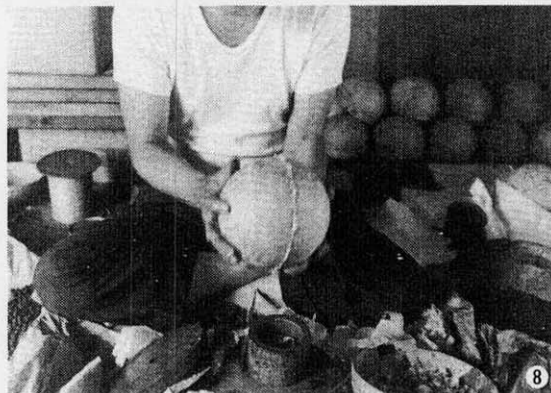
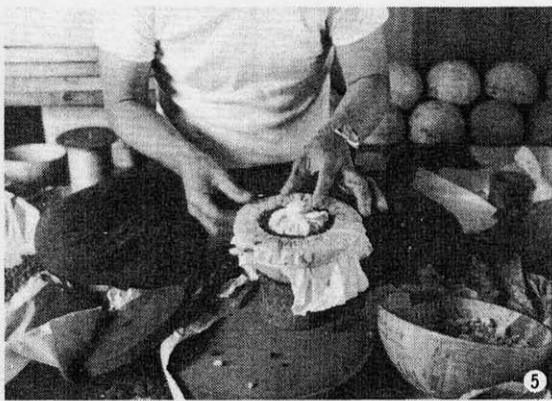
そして大正末期、岩倉から花火の需要の多い岡崎に出てまいりました。工



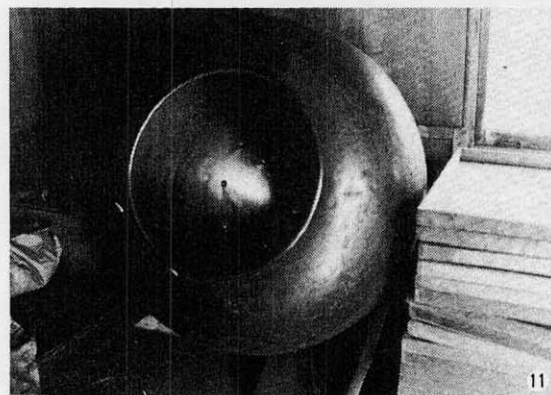
場は最初伊賀町の、今の働く婦人会館の付近に建てました。ところが市の発展とともに、百々町の県営住宅のあたりへ移り、更に現在の保母へは昭和三十八年に来ました。

現在愛知県に花火屋は三十軒ほど、中で打上げを作っているのが九軒です。値段は尺玉といわれる一〇号玉で約三万円。一番小さい三号玉で二千円ほど。この六号玉で一万円ほどです。花火の色のもとになる火薬の調合は、どこの花火屋も秘伝にしておるようです。

六号玉に火薬をつめるのに約四十分、礮谷さんの手は休みなく動いていた。



- ① 西瓜が並べてあるような乾燥場
- ② 仕込工室心得、火薬を扱う心構え
- ③ 光の尾を引いて飛ぶ「星」を並べる
右下はクツシヨンに使う綿の実
- ④ 外側の「星」を飛ばす炸薬を入れる
- ⑤ 中側の「星」いわゆる芯を並べ、更に
中心に炸薬を入れる
- ⑥ 薄紙をはさみで切り、木の円板でおさ
えて、半分ができ上がる
- ⑦ 同じものをもう一つ作り、精神を統一
して合わせる
- ⑧ さすが年期の入った腕前、ピッタリ
- ⑨ 円板で周囲をたたいてナリをなおす
- ⑩ 仕込工室 危険分散のため所々に
- ⑪ 「星」を作る銅製回転がま、星掛器



教育日々



白地図づくり

梅園小 市橋章男

「うまくはれないな。」K君がてれくさそうにしながら、新聞の切りぬきを白地図にはっていた。白地図といっても、B紙二枚をはり合わせ、その上に書いた手製の大地図である。社会科の授業で「新聞の切りぬきを持ってくるように。」という指示をしたものの、スクラップ帳にはっていたのでは、常に子どもたちの目にふれているわけではないし、何かうまい方法はないものか、と思索していた。そんな時、社会科部会でS先生から、「手書きの白地図にはらせている。」という意見をいただき、これは、と思いきつそ



くアイデアを使わせていただいたわけである。

「だれか、B紙二枚に日本地図を書くという。大作業。」をしてくれる子はいないか?という言葉に、クラスのひとつの子が名乗り出てくれ、それでは、ということ、学習班ごと一枚ずつ作らせることにした。教室の机を全部隅におしやり、学習班ごとの協同作業が始まった。「おい、その所、ちょっと形がへんだぞ。」「どんなふうにする?」「もつと港が入りこんでいる。」といった会話が絶えず、実ににぎやかな作業であった。でき上がった日本は、それぞれにどこか形がへんだ。しかし印刷された、形の整った日本より、子どもたちはずっと愛着を覚えたようである。翌日から野菜の栽培に関する記事が続々と集まり、班ごとに相談しながら、こ

れぞと思った記事ははっている毎日である。グループによる研究発表も毎週行っているが、みんな実に熱心だ。

先日行なわれた学級PTAの記し合いの中で、I君のお母さんが、「子どもが学校へ出て行つたあと、主人が新聞を読もうとしたらいつのまにか大きな穴があいていて困ってしまいました。」と苦笑しながら話をされた。そういえば、そのI君が、朝、「おい、米の値段が下がるんだってさ。」と大声をあげながら、うれしそうに顔を上げて大地図に向かっている姿が強く印象に残っている。

生きた音読指導

本宿小 加藤貞子

「あ、たいへん。お日さまにぶつかる。」
みんなが さげんだ ときで

いえが 大きく ゆれたかと
思うと、まるで 空色の 花
びらが ちるように やねも
かべも まども くずれ は
じめました。

「先生、一回講堂で読もう。」
「外で読もう。」

子供達の声で、運動場が野外ステージに変わったり、講堂での国語学習となる。いずれの場合も、ステージは観客席から十五メートルほどはなれる。

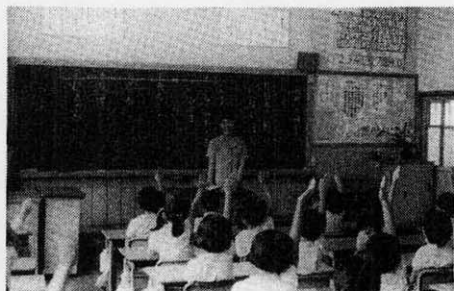
「大きな声でしっかりと読みなさい。」などと、注文を付けなくても、大きな声で音読をする。なぜならば、友達の大きな拍手をもらえないから、真剣に腹から声を出す。

大切なことは、「しっかりと読みなさい。」ではなく、「しっかりと読めたね。」と言うこと、もう一つは、「間違えても笑うな。」「下手だと言うな。」「よい所を見つけてよう。」「上手な読み手をつくることは、上手な聞き手をつくることと思う。」

昨年に引き続き、低学年では総ての子が自信をもって「大きな声で読めるように」をめめて音読指導を続けてきた。

しかし、大きな声だけ出せば音読ができたとは言えない。理解の上になつた読みにするために、教室へもどる。

「あ、たいへん。お日さまにぶつかる。ここところは、大きな声だけでよいのだろう。」



「先生、それはだめだと思うよそれは、お日さまにぶつかる時だから、速く読まなければいけないよ。」

「ぼくは、ぶつかる時は、あつという間だから、速く読んだ方がいいと思うよ。」

「速く読むと、何を言っているのかわからないから、口を大きくあけて、はっきり読むといいよ。」

子供達の読みに対する発想は教師の想像を越えるものがある。現在のところ、子供達は音読が好きで、何時間も同じ教材を学習してもあきない。音読と理解は、車の両輪のようなもの。ごくあたりまえのことではあるが、改めてかみしめる毎日である。



国際児童年記念

親善都市児童・生徒相互訪問

国際児童年を記念して、岡崎市と親善都市関係にある、石垣市、福山市との間に、児童・生徒の相互訪問が計画された。

月貞夫梅園小学校長、副団長萩原博之井田小学校長、横井滋城北中学校長以下、教員十一名、市関係三名、代表児童・生徒五十四名で、主な日程は次のようである。

去る六月二十一日、根石小は木村資生先生の基金をもとに、「愛校の森」を作り、開園式を行った。

愛校の森開園

根石小

【寄贈刊行物・資料等】
◇勉強にいとむ
あおいの実 著

岡崎市立葵中学校編

勉強に対する取組み方について、生徒の手記を集録。第一集にひきつづき、「学び方」学習実践の、生きた成果を綴る。

B6判一六九頁。
◇学級通信を軸とした学級経営
中尾剣一・牧野好博 佐伯友之 共著

県教育論文、昭和五十二年度最優秀賞を受賞した論文をもとに書きあげた実践記録。明治図書発行。A5判一七八頁一五〇〇円



国際児童年1973

国際児童年のシンボルマークはエリク・イェリカオ氏の作品

の作品。オリープの環の中で大小二つの人間像が抱きあっている。

【国際児童年スローガン】

- ◆わが子への愛を世界のどの子にも
◆どの子にも明るい未来としあわせを
◆よい世界あふれる子どもの笑顔から
◆たくましく正しく伸ばせ世界の子ども
◆どの子にも今日のしあわせ明日の夢
◆どの子にも愛を希望をしあわせを

第23回岡崎市中学校総合体育大会の記録 (昭和54年5月20日)

Table with 4 columns: 種目 (Event), 会場 (Venue), 成 (Winners), 績 (Results). Lists various sports events and their winners.

●個人成績 (陸上競技)

Table with 4 columns: 種目(男子) (Event/Boy), 記録 (Record), 氏名 (Name), 校名 (School). Lists individual records for track and field.

●体操競技

Table with 4 columns: 種目(男子) (Event/Boy), 氏名 (Name), 校名 (School), 種目(女子) (Event/Girl), 氏名 (Name), 校名 (School). Lists results for gymnastics.

●柔道

Table with 3 columns: 1位 (1st Place), 2位 (2nd Place), 3位 (3rd Place). Lists names and schools for judo winners.

渡里の大松



点

所在地一岡崎市渡町

矢作川の、渡橋西たもとにある諏訪神社の境内に、見事な松がある。胴まわり五・二メートル、高さ二十五メートル。樹令およそ四百年。

このあたりが渡と呼ばれるのは、往時、矢作下の渡があったからである。天文十六年九月、ここで家康の父広忠が、おじ松平信孝はじめ旧家臣酒井将監などを敵にまわして戦った渡里の合戦があった。

信孝は、織田を後ろだてに、おい広忠の岡崎城を攻め落そうと、ここ渡河原に陣をはる。広忠は、敵に足を留さずなど、小

●カッター

岩津中

清水祥明

勢にもめげず、河を渡って応戦、戦は延々八時間続いたという。

さて、この合戦の際、当地渡に居城し、広忠に加勢して討死した武將に鳥居源七郎忠宗（元繁）がいた。

松は、その忠宗の墓碑に植えられたものだといふ。かつては七、八本の孝松が立ち並びうっそうとした森をなしていたが、河川改修や台風などで倒れ、ついに現在のもの一本になってしまった。渡合戦の記念碑は、昭和四十二年の河川改修で墓碑を移動した際、ここに建てられたものである。

この本を

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ○東海の風土と歴史
山川出版 | 芳賀 登
¥ 1,300 |
| ○パロディ志願
中央公論社 | 井上ひさし
¥ 780 |
| ○匠の時代
サンケイ出版 | 内橋 克人
¥ 1,100 |
| ○古都旅情
平凡社 | 瀬戸内寂聴
¥ 1,300 |
| ○凡談愚言
読売新聞社 | 藤山 寛美
¥ 800 |
| ○念ずれば花ひらく
柏樹社 | 坂村 真民
¥ 1,400 |
| ○高校生への手紙
地歴社 | 門脇 一生
¥ 980 |
| ○厚田村(上・下)
潮出版社 | 松山 善三
¥ 720・¥ 820 |
| ○尾張の歴史 | 中日新聞編
¥ 1,000 |

オストアンデル、ハエトマルトスベール、ヒネルトジャーなどは、かつての子どもなぞなぞ遊びの英語？だが、なかなか要点をついていてほえましい。ナイター、テレビとなると完全な英語と思いきや、これらは和製英語で、英和辞典にはなく、ナイターはナイトゲーム。テレビはTVが省略形とか。

シオスア

「シュツ、シュツ、シュツシュ。」
きなくさい、硝煙のにおいをふりまきながら、小さな尾を振りまわし、やがて、赤黒い、火の玉ができる。落ちはしないか、気をもむ一瞬、「シャツ」ととび出すちりめんもみじ、打ちあげ、仕掛け、この上ないが、庭先の、線香花火の味も、また格別。

浴びる。

照りつける夏の陽を浴びながら、プールで水を浴びるのは子供の一番楽しい時それだけに、こちらの都合で体育の時間をツブそうものなら、非難を浴びること必定。悪くすれば、冷水を浴びる破目にもなりかねない。それでも罵声を浴びるのだけは御免蒙りたい。

素っ裸になりたいぐらい、うだるような暑さの毎日。

お役所は、クーラーを止めて省エネルギーバックで奮闘中。

男性美を誇るK先生、ことしは早々と背中をむいて大ハッスル。

我が校の省エネ、ニューモードは、赤銅色の天然皮革の素敵なシャツ。